



発行所 中日新聞社  
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号  
〒460-8511 電話 052(201)8811



パソコンを駆使してデータを分析する地学部員たち。一宮市北園通の一宮高で

# 星空見やすい地域づくり

一宮市の一宮高校地学部の生徒たちが、全国の学校と連携し、星空の見えやすさを地域ごとに体系化しようと挑んでいる。星空の観測を阻む「光害」の実態調査に取り組んで5年。文部科学省の重点研究にも採択され、二十一日に全国十二校を招いた成果発表会を名古屋市中区の日本ガイシフォーラムで開く。

(谷悠己)

## 一宮高生ら全国「光害」調査

どうして天の川が見えなくなったのか。岐阜県西部よりは三倍。調査のきっかけは、部員たちが抱いた素朴な疑問だった。傾けると、その方角の明るさを数値化する機械を購入。学校や各地でデータを採取した。一宮市の夜空は名

からインターネットで北海道から福岡県までの十二高校と観測データを共有している。東日本大震災を機に節電が叫ばれた昨夏、部員たちは「以前より星空が見えやすくなるのでは」と期待したが、観測データに変化はなかった。研究リーダーで二年の伊藤勇作君(モ)は「きれいな星をとり戻すのが簡単ではないことを実感した」と話す。

文科省のコアSSH 86(72)0191

## 22日、名古屋で成果発表

この記事・写真等は中日新聞社の承諾を得て転載しています。

(スーパーサイエンスハイスクール) 事業費で開く発表会では、四国や九州の高校のほか、地学部の生徒から指導を受けた地元の一宮市向山小学校の児童らも発表に加わる。地学部の顧問で初代の部長でもある高村裕三朗教諭(モ)は「星が見えるように夜空を暗くするのは容易ではないが、データをそろえることで市民が意識を高め、きっかけになれば」と話している。発表会は午前九時半開始。無料。一宮高校の高村教諭(モ)電05